

## 留 学 報 告 書

記入日:2020年3月4日

|   |  |
|---|--|
| 所属学部／研究科・学科／専攻  | 経営学部経営学科   |
| 留学先国  | 米国   |
| 留学先高等教育機関名<br>(和文及び現地言語)                                      | 和文: ペンシルベニア大学<br>現地言語: University of Pennsylvania  |
| 留学期間  | 2019年8月～2019年12月   |
| 留学形態  | <input checked="" type="checkbox"/> 大学間/学部間協定留学 <input type="checkbox"/> 認定留学  |
| 留学した時の学年  | 3年生(渡航した時の学年)  |
| 留学しようと思った理由   | <p>大きな理由は二点あります。一点目は競争的な環境に身を置くことで、自己を成長させたかったからです。大学受験の経験から、自己に負荷がかかることにより、知識のみならず精神面が大きく背負うということを学びました。従って、かかる大学群は、その学生たちの優秀さにおいて秀でているという事実そのものを魅力的に感じました。</p> <p>二点目は米国の多様性を肌で実感したかったからです。企業にとって多様性の持つ力というものは凄まじいものです。そうした力を米国企業は利用し、それが世界最大の経済大国の一つの支柱になっているのではないかと考えました。</p>  |
| 留学のためにした準備,<br>しておけば良かったと思う準備<br>(効果のあった勉強法や教材, 留学準備に役立った授業等) | <p>英会話の練習をしておけばよかったです。特段流ちょうに英語を話す必要はありませんが、ソーシャライジングというのは大学生活を送るうえで不可欠です。ある程度スムーズに会話がこなせた方が、より多くの人と、より深くかかわることができることにつながります。また日々の国際ニュースをチェックするといいいでしょう。共通文化を持たない相手にはなにがしかの共通点を作ることが、得てして重要であると考えます。</p>   |
| この留学先を選んだ理由   | <p>ペンシルベニア大学は私にとって理想的な留学先でした。大きく二点理由があります。一点目は金銭面です。トップユニバーシティプログラムによってカバーされているため、少ない自己負担で留学を実現することができます。あまり実家が裕福ではないので、金銭的援助を得られなければそもそも留学が実現できませんでした。</p> <p>二点目はトップクラスの大学に1学期以上留学できるプログラムが非常に魅力的だったからです。先に述べたように、競争的な環境というものの優先順位が高いため、ペンシルベニア大学のカーブシステムなどは魅力的に映りました。</p>       |
| 大学・学生の雰囲気   | <p>フィラデルフィアはアートが有名な街です。キャンパス内にもいたるところにオブジェクトや絵画が飾られていて、散歩するだけでも楽しめます。毎週末にはキャンパス内外でパーティーやコンサート等が開かれており、どれも盛況でした。学生たちは一様に勤勉でありつつ、遊びにも全力投球というタイプが多くいると感じました。また社会貢献意識が高く、実際に貧困率の高いフィラデルフィア西部でビジネスをするという授業が人気でした。</p>   |
| 寮の雰囲気   | <p>25階建ての寮なので、寮全体関わり合いがあるというよりは、各階で交流があるという形です。月数回ほど階の共有スペースで食事会や、町のレストランへのトリップ等があります。寮全体での催しもありますが、回数は比較的少ないです。</p>   |
| 交友関係  | <p>基本的にはオリエンテーション等で何となく知り合った留学生と一緒にいることが多いです。往々にしてアジア人とともにいることが多かったです。互いの文化への共通理解や、儒教的思想、近頃のニュースなどコミュニケーションが取りやすいことが一因として挙げられます。ルームメイトがドイツ人で、その友人とも知り合え、ルームメイトを通じてまた連鎖的に輪が広がった気がします。毎週何かしらのイベントがあるので、より多くの学生と交流したいのであれば参加することをお勧めします。またサークル等もありますので興味が合致するものがあれば参加してみるのも手でしょう。</p> |
| 困ったこと、大変だったこと   | <p>毎週のリーディングが多いことが挙げられます。科目自体に興味があっても、必ずしも特定の分野にも興味湧くという訳ではないので、時折リーディングが面倒でした。講義は課題図書を読んでいることを前提としているので、リーディングを完了できないと、無為に時間を過ごすこととなります。</p> <p>加えて、多くの授業で中間や期末テスト、エッセイやペーパーなどの課題が重なるので、その時期はタイムマネジメントが非常に難しかったです。</p>  |

|   |  |
|---|--|
| <p>学習内容・勉強について</p>  | <p>多様性をキーワードに履修していました。中でも楽しんだのは多国籍企業マネジメントという授業です。ディスカッションと講義が半々程度で、少し気を抜くと流れについていけなくなったり、ケーススタディではとにかく多くの発言を求められるなど、刺激的でした。またグループプロジェクトでは 4 でチームを形成し、任意の企業の国際戦略を分析しました。最終的にプレゼンとペーパーを提出します。その過程で、意見の衝突や、相互扶助を通じ、非常に密度の濃い時間を過ごせました。</p>  |
| <p>課題・試験について</p>  | <p>とりわけチームでのプレゼンテーションが大きなプレッシャーでした。内容の質を磨き上げることもできることながら、なにより分量をこなすために、プレゼン当日は 20 回以上練習しました。元も子ありませんが恐らく日本で課題や試験を受けたとしたら、多量なものは多いものの、理解に苦しむというようなものは一つもなかったと思います。ひとえに、語学力を上昇させることが、それらにおいてよい成績を収めることに資すると思います。</p>   |
| <p>大学外の活動について</p>   | <p>フィラデルフィアは芸術の街です。美術館では世界的に著名な画家の著作を間近で官署できますし、博物館等も非常に興味深いものでした。<br/>         また自分は食事が好きなので、毎週誰かしらと新レストランの開拓に努めていました。</p>  |
| <p>留学目的の達成度について<br/>         (留学を経験して感じたこと、成長したことを踏まえて)</p> | <p>競争的な環境によって自己を成長させるという目標があり、これは態度の変化という点で達成できたと考えます。膨大な量の課題を消化することに加え、授業の仲間たちとディスカッションしたり、協調したりすることは、他者と物怖じせずに積極的に関わるといったマインドセットを醸成することができました。</p>   |
| <p>留学を志す人へ<br/>         「これを知っておいて欲しい」と思うこと、アドバイス等</p>      | <p>子細なアドバイスはいくつもありますが、何より肝要なのは何故留学をしたいかということです。ここまでお読みになった読者諸氏には既知のことと存じますが、機会の豊富さを、自分が留学を通じてどのように成長したいかという思いがなければ、有効に活用することなどできません。もちろん、機会費用を恐れずに飛び込んでいくこともまた留学を充実たらしめる一要素であります。私もかような思いで参加しましたが、レジャーアクティビティに注力するのか、国際的交友を深めるのか、講義に注力するのか、それ以外の学びを最大化しようとするのか、そうしたフォーカスが曖昧であったため、最初にペンシルベニア大学で何をしたいのかをしっかりと固めるとこうした機会を最大限活用できると思います。<br/>         ペンシルベニア大学への留学は得難い貴重な機会です。要件は難しいかと思いますが、成功をお祈りします。</p> |

